

博物館
だより

ミニミニマイズ



第 200 号

2011.12

第2回 市民開放講座開催

12月7日(水)、平成23年度第2回市民開放講座を当館3階講堂にて開催しました。鉱業博物館研究員の菅原 征洋先生に「寒冷地における暮らしの熱問題」(薬剤による雪氷の融解メカニズム)という演題で講演していただき、たくさんの方にお越しいただきました。博物館実習生も聴講し、「難しい内容だったが秋田市民にとっては身近な題材だったので興味を持って聞くことができた。」「秋田に関連のある雪氷の融解メカニズムを題材に、多くの資料、実験結果を用いながら説明してくださり、身の回りのことは化学でいっぱいであることを実感した。」等の感想がありました。



講演をする菅原先生



聴講する参加者の皆さん

■第3回市民開放講座のお知らせ■

「花こう岩体の内部構造とストロンチウム同位体比初生値との関係」

—屋久島花こう岩体、沢入花こう岩体、遠野複合花こう岩体を例にして—

講師：秋田大学名誉教授 丸山 孝彦 研究員

日時：12月20日(火) 15:00~16:00

*この開放講座は、入館・聴講ともに無料、事前申込不要でどなたでもご聴講いただけます。どうぞお気軽にご参加ください。

重力点の測定が行われました

11月18日(金) 鉱業博物館1階で重力測定が行われました。これは毎年一回、国土地理院によって定期的に測定されるものです。重力測定に用いられる基準点は、中央ホールの中心にある一等重力点で、国内に約120点ありますが、一等重力点は秋田県内では当館のみです。国土と地球を見守る大切な足場となっています。

重力値は月の引力や時間経過により変化するため、何回かに分けて時間をおいて測定するそうです。20分ほどかけて慎重に測定していました。



「1等重力点」と刻字された直径約8cmの金属標



一等重力点に測定器を慎重にセットします



正確に測定するため円形の皿に水平に置きます

重力測定の目的

重力の測定は、重力値の地理的分布や時間変化を精密に求めるために行うもので、重力加速度の大きさを測ります。重力は、地球上の位置や高さにより各地で値が異なるほか、地下の鉱床や断層などの地球内部の構造の違いにより値が異なります。また、地震や火山活動により重力は時間とともに変化します。

測定された成果は、重力図の作成に利用されるとともに、地球の形状(ジオイド)に関する研究や、地震予知・火山噴火予知などの地殻活動に関する研究に必要な資料になります。(国土地理院HPより)

サイエンスボランティア研修会

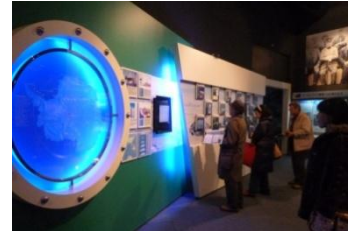
11月24日(木)サイエンスボランティア研修会を開催しました。今回は県立博物館と白瀬南極探検隊記念館での研修となりました。

県立博物館では企画展「鉱山の記憶」を開催中で、当館が資料提供した鉱山専門学校の写真パネルも展示されています。サイエンスボランティアの皆さんは、学芸主事の新堀 道生さんの説明にメモを取ったり質問をしたりしながら熱心に聞き入っていました。案内の仕方など大変参考になったと話していました。

創立100周年を迎えた工学資源学部と同様に、白瀬南極探検隊も東京芝浦ふ頭を出港してちょうど大和雪原に到達してからちょうど100周年を迎えています。記念館では100周年記念の特別展示を開催していました。



県立博物館にて記念撮影



白瀬南極探検隊記念館の特別展示

お知らせ

財団法人日本博物館協会 宝くじ協会助成事業の一環として、この度ベビーカーが寄贈されました。これでベビーカー2台、車いす2台となり、来館者の皆様により便利にご利用いただけるようになりました。



モデルは1歳3ヶ月のかなたくん

第2回 鉱業博物館特別展示

「リニューアルオープンまでの軌跡(写真展)」

11月30日(水)～12月25日(日)

当館2階の特別展示室で開催しています。約5ヶ月間にわたるリニューアル工事の様子を写真に収めました。

来年1月6日(金)からは「リニューアルからリニューアルまで」～鉱業博物館企画展の歩み～と題して第3回特別展示を開催します。どうぞお楽しみに!



標本の紹介

化学合成生物化石群集

ツノガイモドキ類などの二枚貝やその他の炭酸塩生物殻の化石が密集して産出します。メタンが湧出する水深50～150m前後の海底で形成されました。これまでに見つかった化学合成化石群集は深い海で形成されたものでしたが、これは現在もっとも浅い海のものと考えられています。宮崎県新富町の久家神社境内で発見され、国立科学博物館で展示されている標本の一部が、今回のリニューアルのために当館に寄贈されました。

化学合成生態系では、宿主生物がメタンや硫化水素を取り込み、体内に共生する細菌がそれらから有機物を生産して宿主に与えるという、独特の物質循環が成り立っています。

海底火山活動が盛んだった日本周辺は、そのなごりとして産出された化学合成生物群集の宝庫となっています。2階化石コーナー内シアターにぜひ足を運んでみてください。

◆高鍋層 約250万年前の第四紀初期の地層

化石コーナーを担当した山崎 智恵子研究員。
ハンマーで標本を割り、化石を取り出す作業



白く見える円状の線は貝殻の断面



取り出されたツノガイモドキ化石